

島根原子力発電所  
敷地周辺海域の活断層評価  
(コメント回答)

---

平成26年 5月 1日  
中国電力株式会社

地点	指摘事項	頁
鳥取沖西部断層 西端付近	<p><b>指摘事項①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の音波探査記録等では端部の評価ができないので、最新手法による精度の高い音波探査記録により評価を行うこと</li> <li>・調査に当たっては、浅部と深部の両方の地質構造が把握できるよう留意すること</li> </ul>	4～7
F-Ⅲ～F <sub>K</sub> -2 断層の端部付近	<p><b>指摘事項②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一測線上でも音波探査音源の違いにより音波探査記録の見え方が様々なので、複数のデータを用いて詳細に検討すること</li> </ul>	8～11
大田沖断層付近	<p><b>指摘事項③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・断層評価に当たっては、より詳細な地質の年代区分について検討を行うこと</li> <li>・年代区分に当たっては、地質年代の直接的な測定を行うこと</li> </ul>	12～15
敷地北東沖 (多古鼻沖)付近	<p><b>指摘事項④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海底面に急崖地形及び傾斜地形が認められることから、最新手法による精度の高い音波探査記録により評価を行うこと</li> </ul>	16～18

# 追加調査計画概要(案)

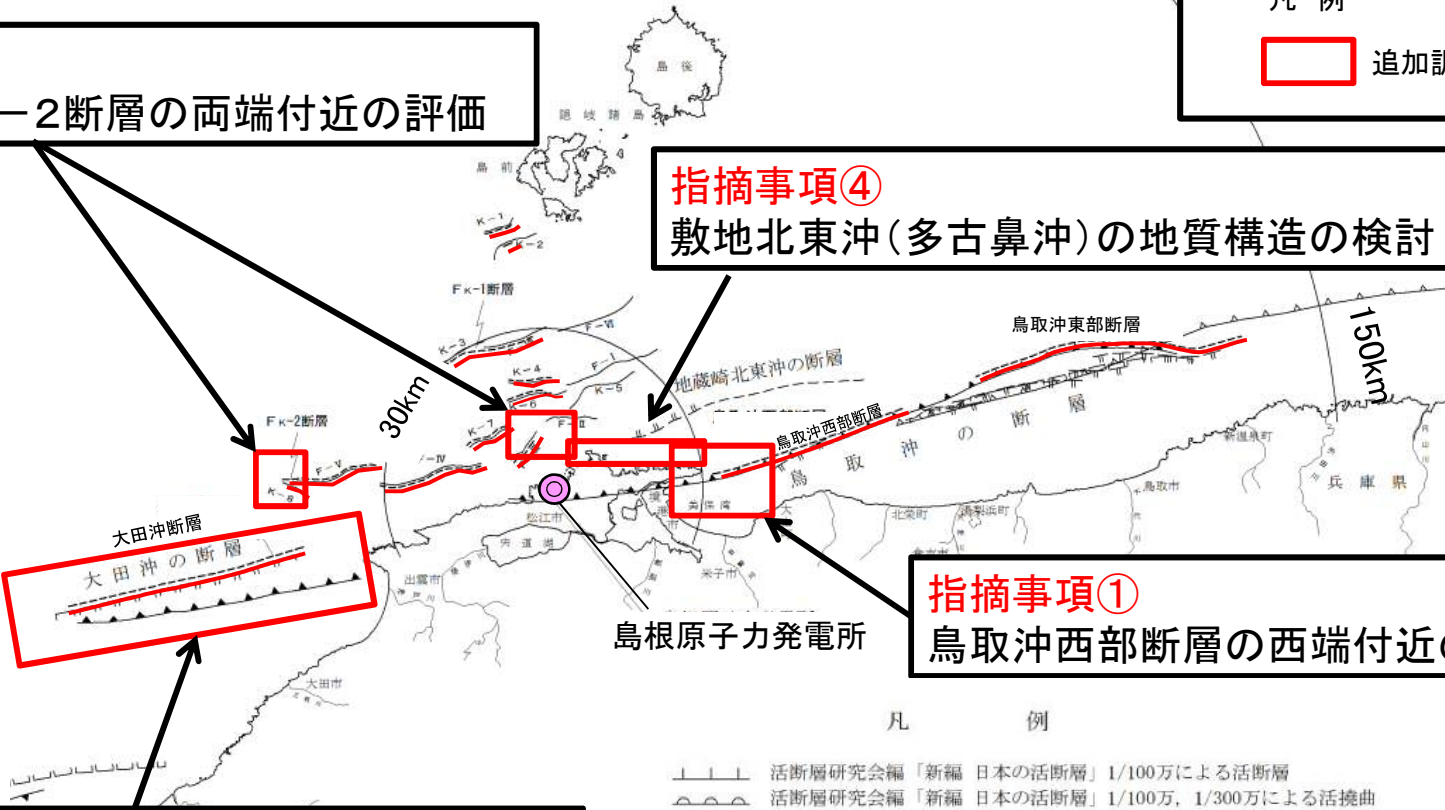
**指摘事項②**  
F-III ~ F<sub>K</sub>-2断層の両端付近の評価

**指摘事項④**  
敷地北東沖(多古鼻沖)の地質構造の検討

**指摘事項①**  
鳥取沖西部断層の西端付近の評価

**指摘事項③**  
大田沖断層の地質の年代区分の検討

凡例  
[Red Box] 追加調査範囲



凡例

- 活断層研究会編「新編 日本の活断層」1/100万による活断層
- 活断層研究会編「新編 日本の活断層」1/100万, 1/300万による活撓曲
- 地質調査所「日本地質構造図, 日本地質アトラス(第2版)」1/300万による新第三紀の逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
- 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による断層, 伏在断層および推定断層
- 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層, 伏在断層および推定断層
- 海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/20万による断層
- 海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/5万による伏在断層
- 徳山ほか(2001)「日本周辺海域中新世最末期以降の構造発達史」による逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
- F-IV 敷地前面海域の主な断層
- 後期更新世以降の活動を評価する区間



余白

【指摘事項①】

○鳥取沖西部断層の西端付近の評価について

- ・ 事業者の音波探査記録等では端部の評価ができないので、最新手法による精度の高い音波探査記録により評価を行うこと
- ・ 調査に当たっては、浅部と深部の両方の地質構造が把握できるよう留意すること

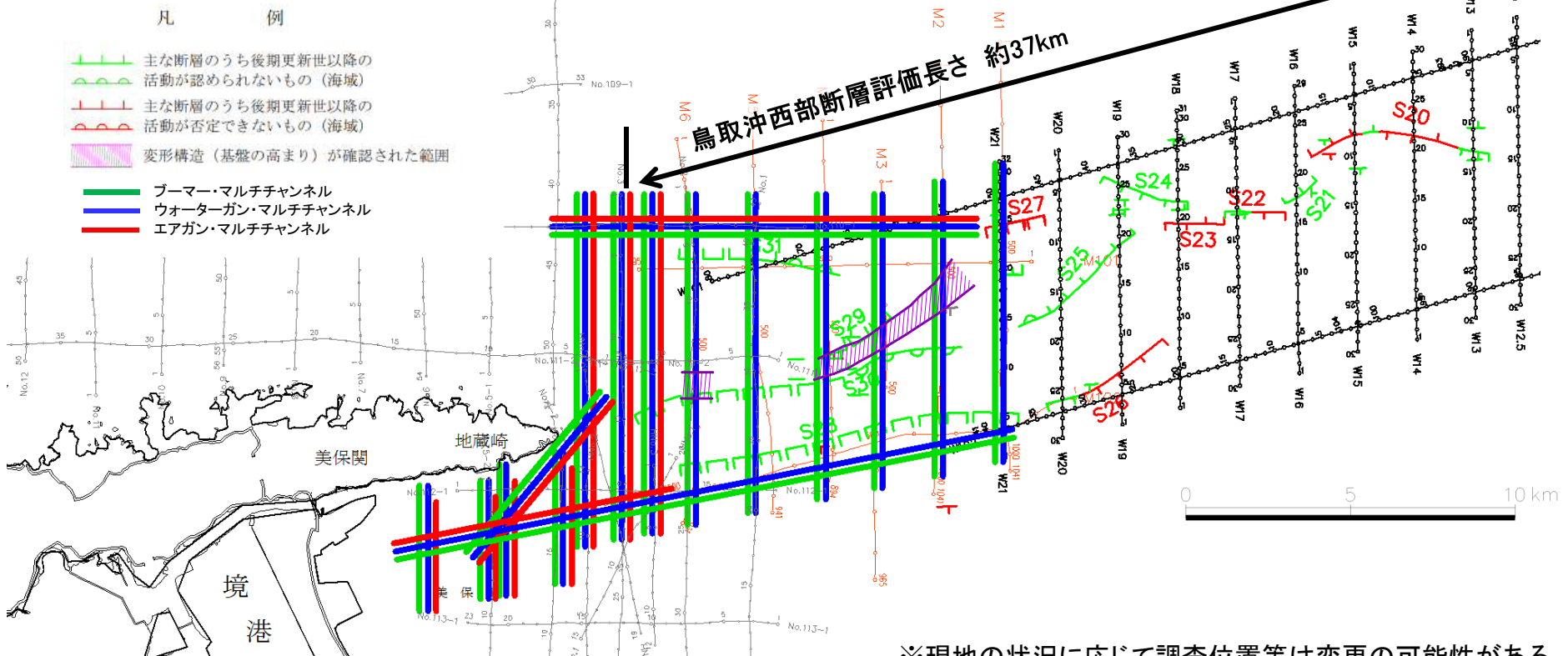
# 追加調査測線(指摘事項①): 鳥取沖西部断層の西端付近の評価)



**【目的】**  
 西端付近について、浅部、中深部及び深部の音波探査を実施し、活動性評価を行う。

**【調査の種類】**

- ・ブーマー・マルチチャンネル
- ・ウォーターガン・マルチチャンネル
- ・エアガン・マルチチャンネル

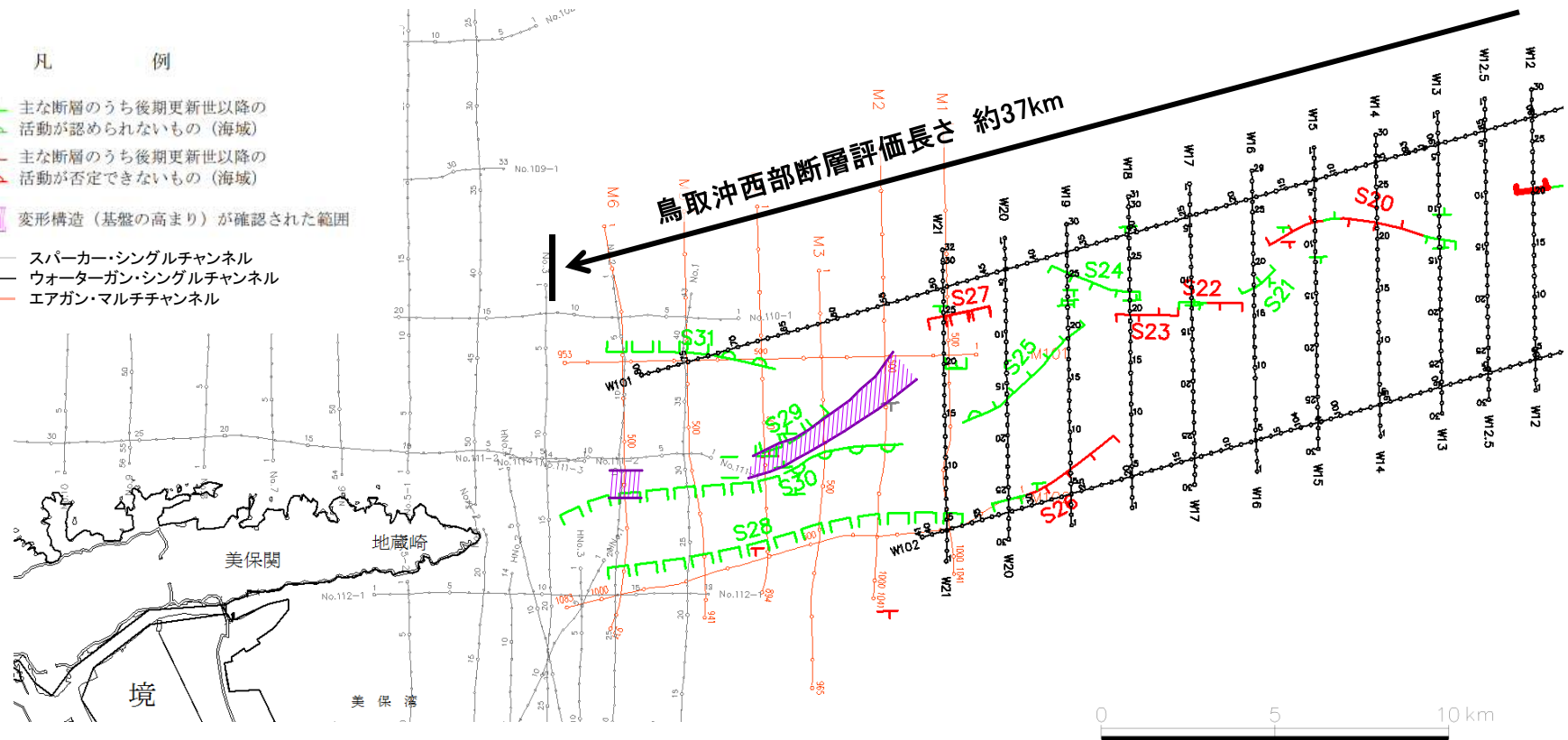


※現地の状況に応じて調査位置等は変更の可能性がある。

参考：既往調査測線（指摘事項①）：鳥取沖西部断層の西端付近の評価



- 凡 例
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの（海域）
  - 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの（海域）
  - 変形構造（基盤の高まり）が確認された範囲
  - スーパーカー・シングルチャンネル
  - ウォーターガン・シングルチャンネル
  - エアガン・マルチチャンネル



余白



【指摘事項②】

○F-Ⅲ～F<sub>K</sub>-2断層の端部評価について

- ・ 同一測線上でも音波探査音源の違いにより音波探査記録の見え方が様々なので、複数のデータを用いて詳細に検討すること

# 追加調査計画案(指摘事項②): F-Ⅲ~F<sub>K</sub>-2断層の両端付近の評価

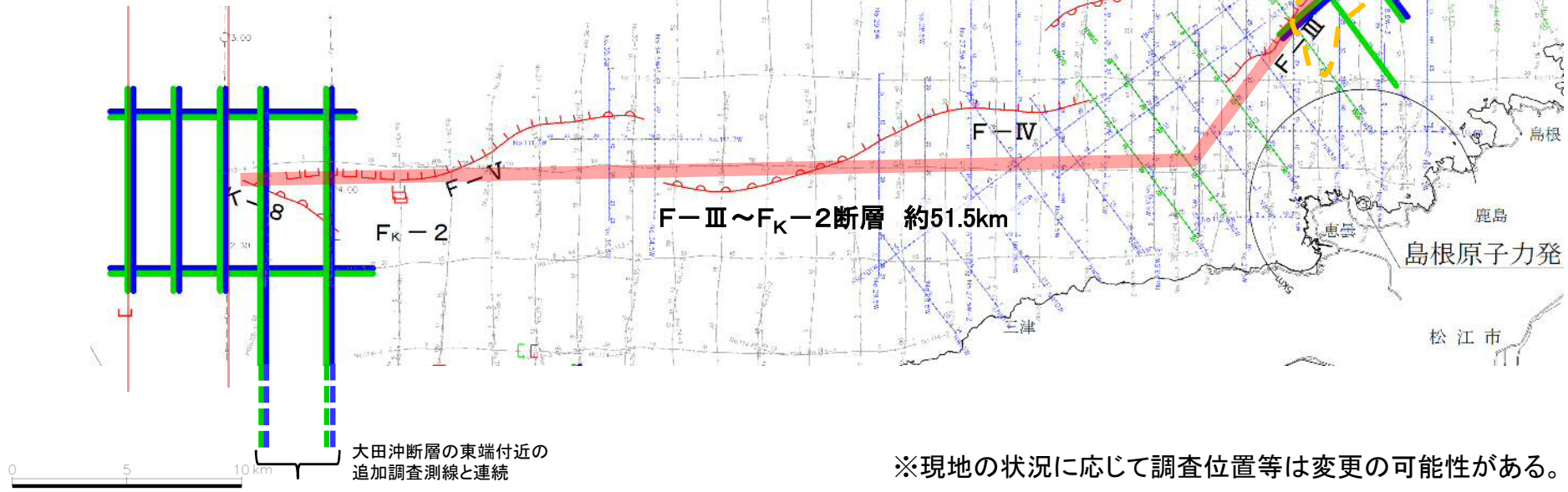


**【目的】**  
 両端部付近について、浅部及び中深部の音波探査を実施し、活動性評価を行う。

**【調査の種類】**  
 ・ブーマー・マルチチャンネル  
 ・ウォーターガン・マルチチャンネル



- 凡 例
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの(海域)
  - 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの(海域)
  - ブーマー・マルチチャンネル
  - ウォーターガン・マルチチャンネル



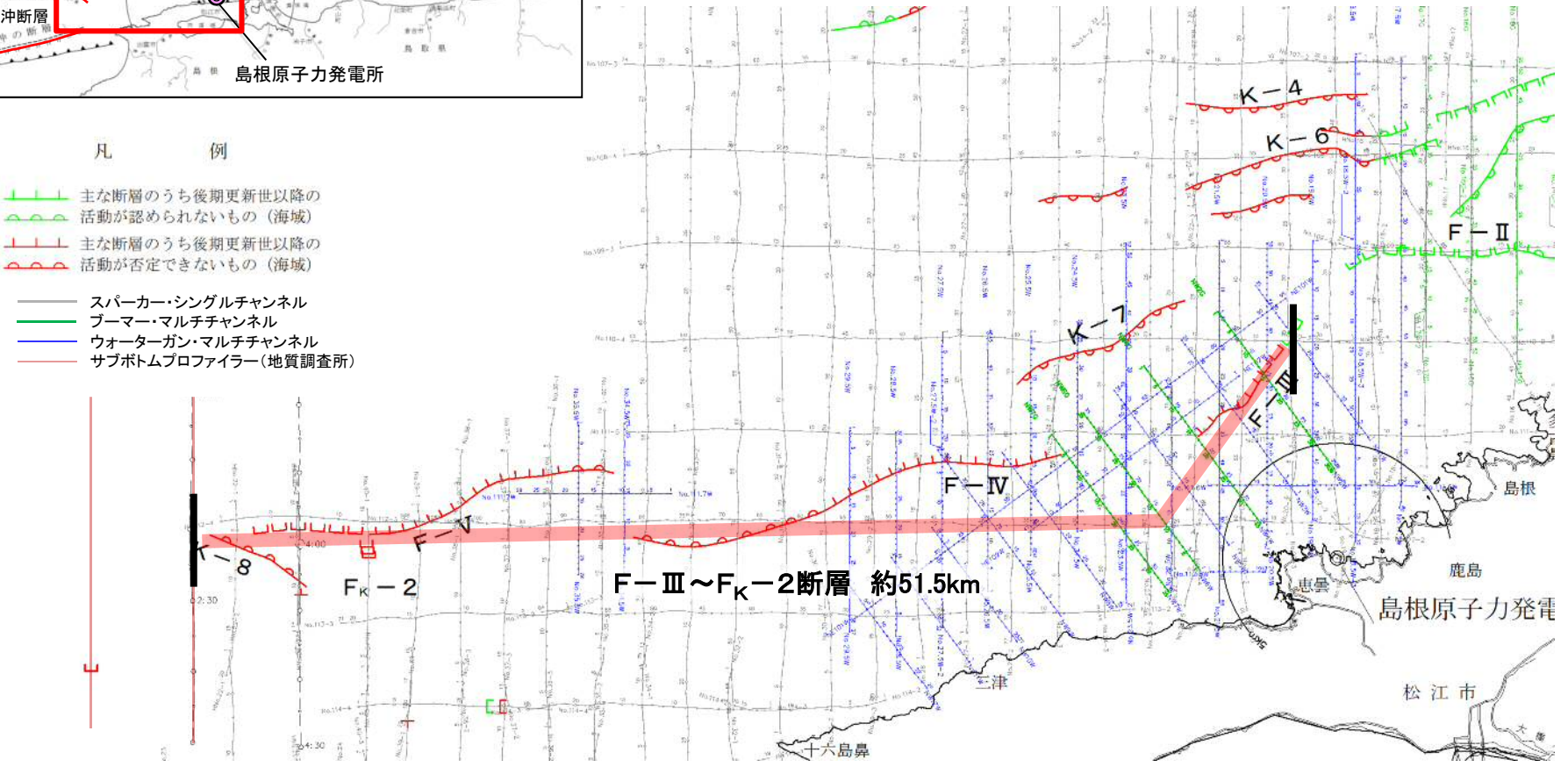
B層が分布する範囲

※現地状況に応じて調査位置等は変更の可能性がある。

# 参考：既往調査測線(指摘事項②):F-Ⅲ~F<sub>K</sub>-2断層の両端付近の評価



- 凡 例
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの(海域)
  - 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの(海域)
  - スーパー・シングルチャンネル
  - ブーマー・マルチチャンネル
  - ウォーターガン・マルチチャンネル
  - サブトムプロファイラー(地質調査所)



余白

**【指摘事項③】**

○大田沖断層の地質の年代区分について

- ・断層評価に当たっては、より詳細な地質の年代区分について検討を行うこと
- ・年代区分に当たっては、地質年代の直接的な測定を行うこと

# 追加調査計画案(指摘事項③:大田沖断層の地質の年代区分の検討)



### 【目的】

両端部付近について、浅部及び中深部の音波探査を実施し、敷地前面海域と同程度に地質層序の年代区分を細区分し、活動性評価を行う。また、年代の直接的な測定を行い精度向上を図る。

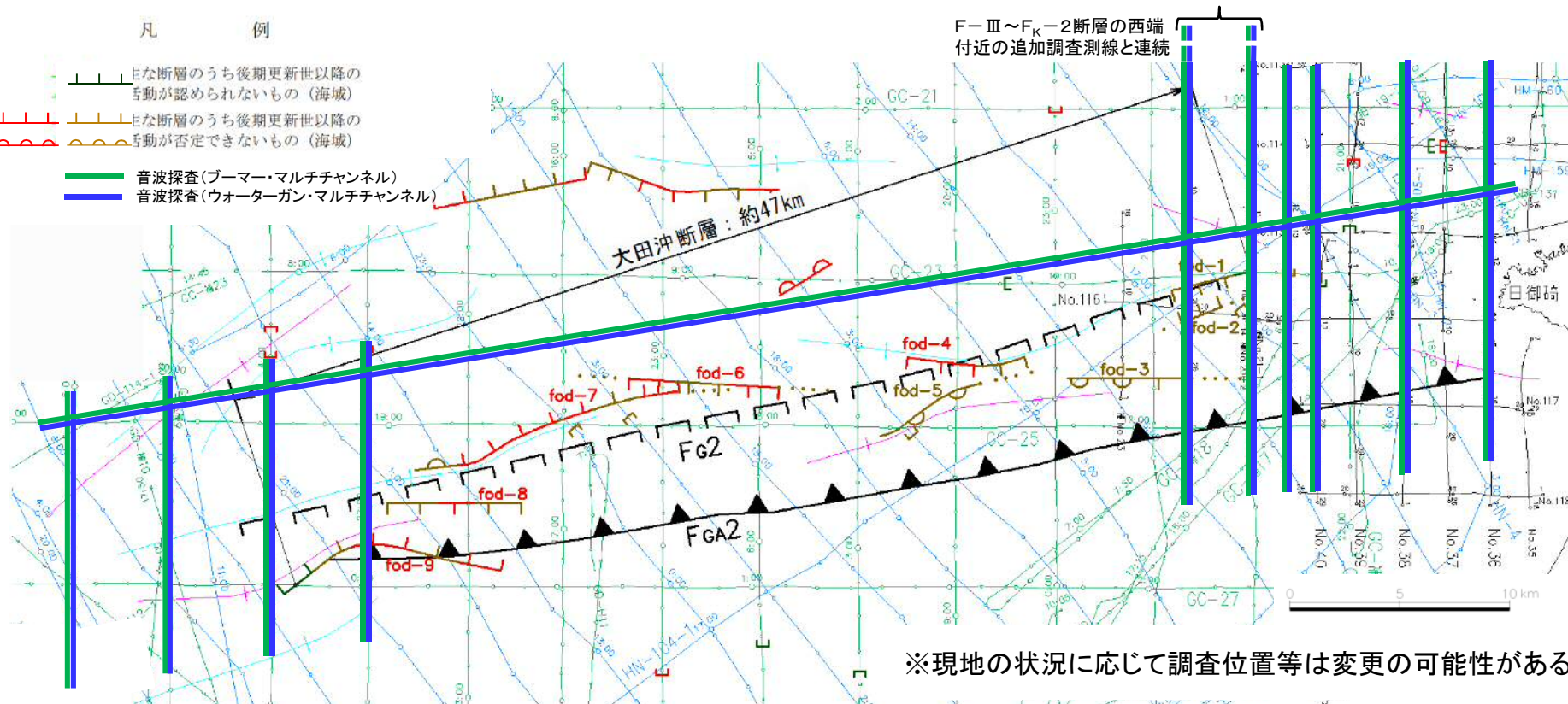
### 【調査の種類】

- ・音波探査(ブーマー・マルチチャンネル)
- ・音波探査(ウォーターガン・マルチチャンネル)
- ・採泥(ピストンコアラ)※追加音波探査測線上で実施



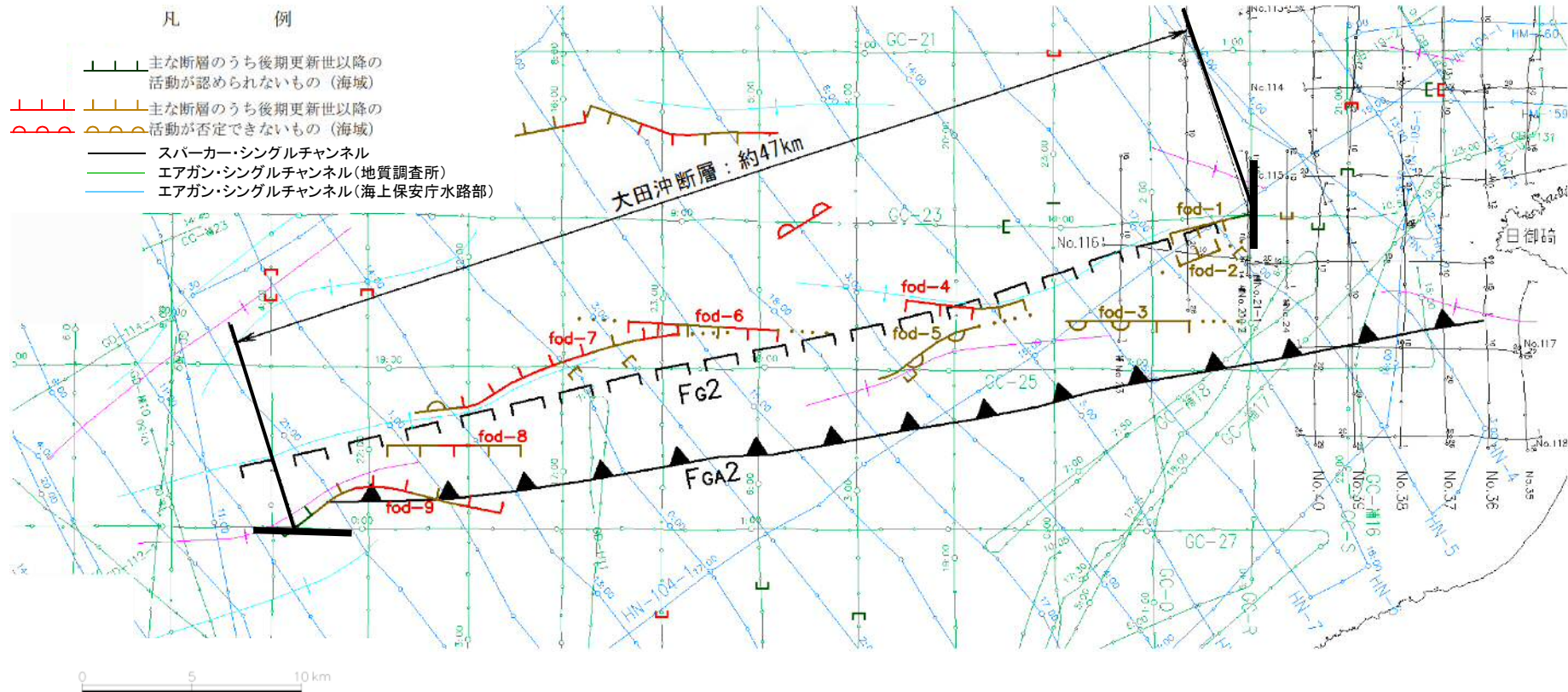
### 凡 例

- 上な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの(海域)
- 上な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの(海域)
- 音波探査(ブーマー・マルチチャンネル)
- 音波探査(ウォーターガン・マルチチャンネル)



※現地の状況に応じて調査位置等は変更の可能性がある。

# 参考：既往調査測線（指摘事項③）：大田沖断層の地質の年代区分の検討



余白



【指摘事項④】

○敷地北東沖(多古鼻沖)の地質構造について

- ・ 海底面に急崖地形及び傾斜地形が認められることから、最新手法による精度の高い音波探査記録により評価を行うこと

# 追加調査計画案(指摘事項④): 敷地北東沖(多古鼻沖)の地質構造

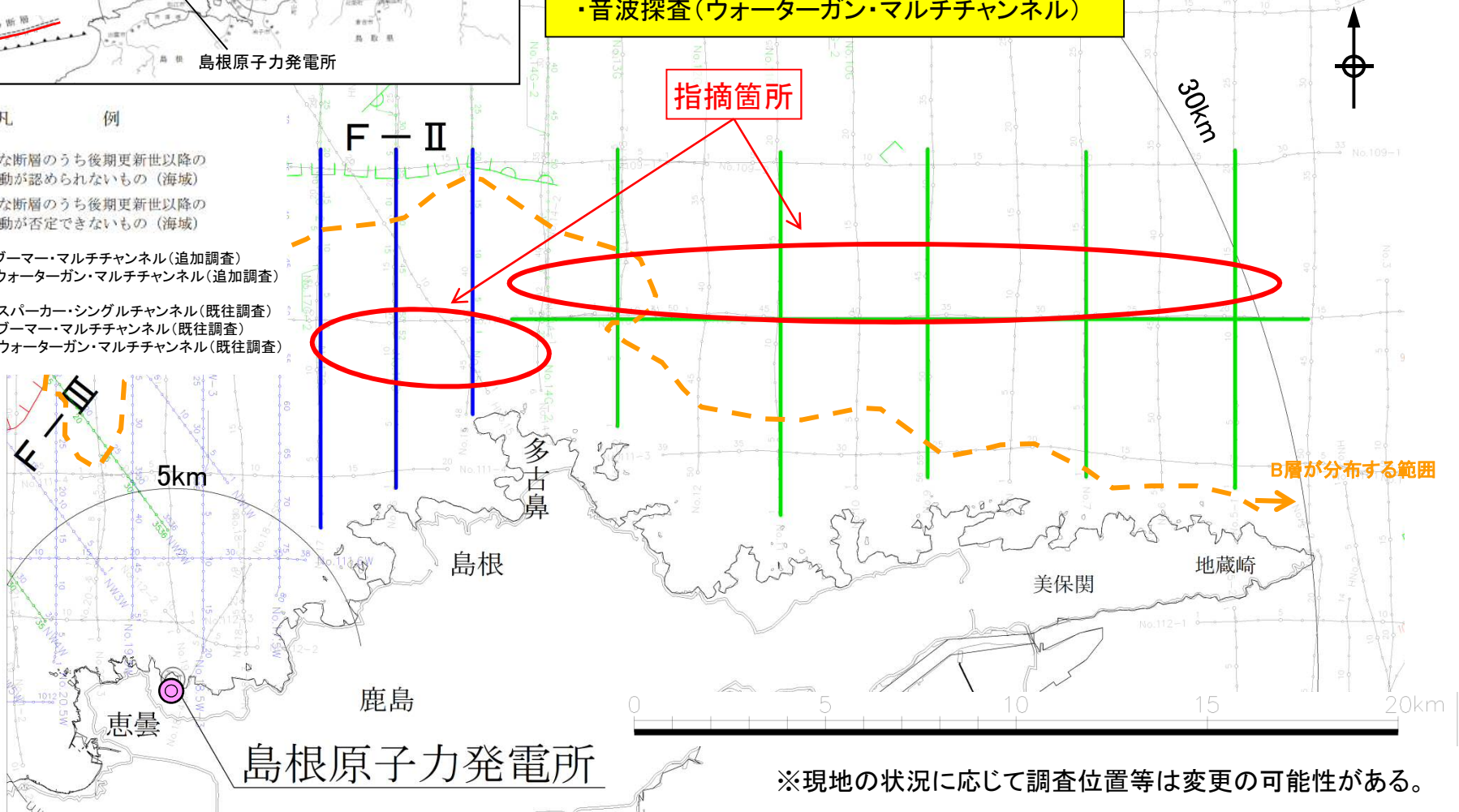


**【目的】**  
 敷地北東沖(多古鼻沖)について, 浅部もしくは中深部の音波探査を実施し, 海底面に見られる急崖地形及び傾斜地形付近の地質構造を把握する。

**【調査の種類】**  
 ・音波探査(ブーマー・マルチチャンネル)  
 ・音波探査(ウォーターガン・マルチチャンネル)

凡 例

- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの (海域)
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの (海域)
- ブーマー・マルチチャンネル(追加調査)
- ウォーターガン・マルチチャンネル(追加調査)
- スーパーカー・シングルチャンネル(既往調査)
- ブーマー・マルチチャンネル(既往調査)
- ウォーターガン・マルチチャンネル(既往調査)



※現地の状況に応じて調査位置等は変更の可能性がある。

# 参考: 指摘事項④: 敷地北東沖(多古鼻沖)の地質構造

